稲作・畑作 営農情報

水稲

○幼穂形成期以降の水管理

・中干しは、幼穂形成期までに終了します。幼穂形成期以降は稲体の活力維持のため、間断かん水（カドミウム含有米の発生が懸念される地域は湛水管理）とします。

・高温時やフェーン現象時には、湛水や水の入れ替えにより根の活力維持に努めます。

・冷害の危険性がある、日平均気温20℃以下（最低気温17℃以下）の低温が予想される場合は、予め前歴深水管理（25℃程度の水を10cm以下に保つ）で、低温対策を実施します。

～お　知　ら　せ～

○穂肥巡回を実施します

稲の状態を確認して穂肥の時期・分量の目安をつけ、今後の管理を指導する穂肥巡回を７月19日～22日に実施します。詳しい日時・場所は外務で配られます資料をご覧ください。

ねぎ

○長ねぎ栽培について

病害虫の発生が更に多くなる時期ですので、圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

〈病害〉

梅雨入り以降、定期的な降雨により湿度が高く、病害の発生が多くなっています。

・軟腐病　オリゼメート粒剤、ヨネポン水和剤など
・白絹病　モンカット粒剤、モンガリット粒剤など
・べと病　リドミルゴールドＭＺ、レーバスフロアブル、フォリオゴールドなど
・さび病　ラリー乳剤、オンリーワンフロアブル、アミスター20フロアブルなど
・黄色斑紋病斑対策のため、黒斑病（葉枯病）の防除をしましょう。ロブラール水和剤、ポリベリン水和剤など

〈害虫〉

降雪少なく、春先が温暖だったことで害虫の発生が早まっています。今後気温が高くなれば、益々害虫の発生が多くなるので注意。

・ネギアザミウマ　ダントツ粒剤、ハチハチ乳剤、アグロスリン乳剤など
・ネギハモグリバエ　リーフガード顆粒水和剤、ベストガード粒剤など

きゃべつ

○きゃべつ栽培について

７月中旬には圃場の準備をし、連作障害を抑制するために土壌処理剤を散布しましょう。また、夏場は干ばつ被害になりやすいので、カルシウム等の資材も投入しましょう。

定植時期は７月下旬から８月上旬です。遅くなると気温が低下するため結球しづらくなります。高単価を狙える９月中旬から10月上旬に出荷できるよう定植は遅れないようにしましょう。定植前には、スタークル顆粒水和剤やプレバソンフロアブル５をトレーに灌注処理し、初期の害虫防除をしましょう。気象条件により異なりますが、２週間～３週間は効果が継続します。

定植後は、干ばつ状態になりやすいためスプリンクラーなどの冠水設備の使用をお勧めします。さらに、干ばつに負けないようにするために、定植後には、速効性の肥料を若干量施用し活着がスムーズに進むようにしましょう。畝間・株間の除草は徹底しましょう。

アスパラガス

○アスパラガス栽培について

露地栽培では、６月末から立茎（茎を１本残して栄養を蓄える）に入るので、伸ばした茎が折れないように管理しましょう。

追肥の時期にもなりますので、Ｓ646やジシアンなどを生育に応じで散布してください。

・茎枯病　梅雨時期と９月に発生します。被害残渣から発生しますので、前年に発生した畑では注意しましょう。
・斑点病　茎枯病と同じく被害残渣から発生します。風通しが悪くなると被害が大きくなるので注意しましょう。

今月のあなたの運勢（2016年７月）

牡羊座（3・21～4・19）　注意力が散漫になりがち。慣れている作業でも確認を怠らないこと。気分転換するなら、凝った手料理に挑戦を